

アスリートは  
つま

水中パラシュートをいくつもつけて負荷をかけて泳ぐなど、激しい練習で知られるが、それができない。今は代わりに車いすの力こに鉄アレイを入れて、坂もある自宅近くの道を数分移動し、筋力トレーニングの時間を大幅に増やした。水の練習に近い苦しい状況を作っている。パワーアップもした。存分に泳げる日を心待ちにする。

パラリンピック5大会出場を果たし、金メダルは15個。現在でも日本代表の主力として先頭に立つ「水の女王」だ。東京大会延期が決まった時は、「苦しい練習をさらに1年続けるのか」との不安が頭をよぎり、気持ちを落ち着かせるのに時間がかかった。だが、競技から退くという選択肢は一切なかった。「もともと、東京が最後のつもりでやっている。本当は今年、49歳で(東京パラ)開幕を迎え、(8月27日の誕生日を経て)50歳で得意種目のレースを泳ぎたかったのに」と笑う。

# 水の女王 陸で筋トレ



パラ競泳女子

成田真由美 49(横浜サクラ)

13歳で発症した脊髄炎で下半身まひになった。23歳で水泳を始めたが、上半身を酷使し、近年はターンを何度も重ねる距離の長い種

自宅近くでトレーニングを重ねる成田真由美—京祥平撮影

の心と体を支えている。  
「横浜サクラスイミングスクール」を20年以上も活動拠点にしている。新型コロナウィルスの影響で施設が営業自粛となり、顔なじみの仲間と会う機会がなくなった。スクールでの友人でもある一人暮らしの80代の女性と無料通信アプリ「LINE」などでやりとりし、時間があればお弁当を買って届けたこともある。「お互いに元気だね」と確認している。こういう時だからこそ、人へのやさしさや思いやりはなくてはならない。これまで当たり前だった練習環境や日常生活のありがたさを改めてかみしめている。かつてない経験だが、アスリートとしての強さにもつながると信じている。(畔川吉永)

なりた・まゆみ 1970年生まれ。神奈川県出身。夏季パラリンピックは96年アトランタ大会から4大会連続で日本代表。2008年北京大会後、引退したが、15年に復帰し、16年リオ大会にも出場。50分背泳ぎなどで日本記録を持つ。運動機能障害S5クラス。東京五輪・パラ大会組織委員会理事も務める。1474、56kg。



題字・稲葉監督

五輪野球回顧編

一枚の胸上げ写真がある。選手に掲げられているのはバルセロナ大会代表監督の山中正竹(73)だ。「銅メダルで胸上げなんて極めて複雑だった」と山中。それでも選手にうながされ、宙を舞った。「周囲に納得してもらえない結果でなくても、自分たちには分からない財産になった」。皆の晴れやかな笑顔には、理由があった。



●バルセロナ五輪の3位決定戦で米國を破って銅メダルを獲得し、山中監督を胸上げる日本代表の選手たち。●適時2塁打を放ち、銅メダル獲得に貢献した小久保

# 1992年バルセロナ 銅

## 失意の底 投打奮起

⑩

強豪キューバと金メダルを争うはずだった大会。予選と準決勝の台湾戦2敗が誤算だった。特に、のちに阪神入りするエース郭李建夫が難敵だった。150キロの直球と落差のあるフォークが武器で、「今で言うソフトバンクの千賀のよう」と山中が評する。当時の海外勢には珍しいタイプ。金メダルを取るには倒さなければいけない相手だったからこそ「(ビデオ)

テープがすり切れるほど研究していた」。しかし攻略することはできなかった。「4年間頑張ってきた、金も銀も一瞬で吹っ飛んだ」準決勝での敗戦。試合後のバスは誰もが終始、無言だった。夜中に選手村に到着し、自室で5時間近くぼろ然としていた山中も、気がつけばユニホームのままベッドに倒れ込んでいた。翌朝、米國との3位決定戦前のミーティング。シヨックをぬぐい切れないナ

インの前に、山中は語りかけた。「きょうがこのチームで最後の試合。バルセロナ五輪の日本代表で良かった、そう思えるような試合をしよう」

「最後か……。よし、やろうぜ」。うつむいていた選手たちと、ようやく目が合った。

「最後の試合」で、選手は力を出し切った。唯一、大学生で選出された小久保が2打点、1番の大島も4

正式競技になって初めての大会とあって、金メダルへの期待も一層大きくなった。住友金属の監督として社会人の日本一を経験し、ソウル大会でコーチを務めた山中も大きな重圧と戦っていた。「この挑戦ができるのはたった一人という喜びを感じよう」と腹を決め、指揮を執った。

現在、全日本野球協会会長や侍ジャパン強化本部長として日本代表を支える山中。五輪の金メダルへ、挑戦は続いている。(敬称略)

### ●バルセロナ大会の日本成績

予選リーグ	相手	スコア	主な選手と その後の進路
① 7.26	プエルトリコ	○9-0	小久保裕紀(青学)
② 7.27	スペイン	○12-1	大-ダイエー(な)
③ 7.28	キューバ	●2-8	小-山雅仁(日)
④ 7.29	ドミニカ共和国	○17-0	本-石油一(横浜)
⑤ 7.31	イタリア	○13-3	杉-浦正則(日本生命)
⑥ 8.1	台湾	●0-2	伊-藤智仁(三菱自動車)
⑦ 8.2	米國	○7-1	京-大島公一(日本生命)
準決勝 8.4	台湾	●2-5	近-鉄(な)
3決 8.5	米國	○8-3	など

※金はキューバ、銀は台湾。表記は当時のもの

打点と気を吐いた。伊藤、杉浦ら投手陣もリードを守り切った。失意の底から手にした銅メダルだった。

⑩

## 本田氏 国士館高で指導

# 73歳名将「最後の挑戦」



今年から国士館高で指導する本田裕一郎氏

高校サッカーの監督として全国制覇を経験した本田裕一郎・流通経大柏（千葉）前監督が、今年から国士館高（東京）で指導にあたっている。「最後の挑戦」と新天地行きを決めた73歳の名将は、新型コロナウイルスの影響で前例のないチーム作りを迫られる中、新たな目標や近況を語った。

本田氏は、1月にチームに加わり、約2か月が過ぎたところで部活動が休止に。「戦術を理解しかけて、かなり良くなってきたところだったのに」と残念がる。肩書は「テクニカルアドバイザー」だが、実戦ではピッチ脇に立ち、指揮を執っているという。1975年に市原緑（千葉）の監督に就任し、同校を強豪に押し上げると、86年に赴任した習志野（同）では、95年の全国高校総体で優勝。20

### 高校サッカー

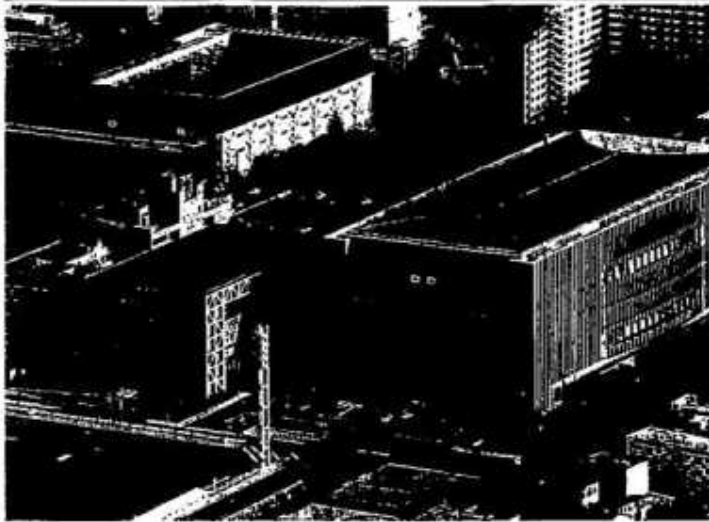
01年から指揮を執る流通経大柏では、07年度の全国選手権を初制覇した。元日本代表FW玉田圭司（J2長崎）ら、輩出したJリーガーも数多い。

流通経大柏を退任した理由を、「新しい刺激がほしかった」と打ち明ける。一方で、「引退なんて全く考えなかった」。体力、気力の続く限り、指導者としての道を歩み続けることに、迷いはなかった。

国士館は全国選手権の出場4度で、いずれも初戦敗退。名将の目には、「自信がなく、意識が低い」とやや物足りなく映ったという。戦術理解に時間をかけながら、全球測位システム（GPS）を使って走行距離などを数値化するなど、改革ももたらしている。

全国高校総体が初の中止となり、いきなり困難なチーム作りを強いられる。それでも百戦錬磨の指揮官は「普段はできないことができる、せいじくなく時間」と前向きだ。「このチームを何色にしようかと考えることは、すごく楽しみ」。全国の頂点へ導くまで、情熱を燃やし続ける。

（宮地語）



ナショナルトレーニングセンターが閉鎖されるなど、練習場所を失い不安を抱えている選手も多い

# 長引くコロナ 選手の心に影

不眠や食欲低下…訴え増える

練習拠点の閉鎖に、相次ぐ大会中止の報…。新型コロナウイルスの影響がスポーツ界全体にも大きく広がるなか、心の不調を訴えるアスリートが増えている。各競技団体は専門家と連携して対策を急ぐが、選手のリアルな声をすくい上げるには課題もある。

## 先見えぬ不安、管理難しく

「所屬先の活動が止まって満足に練習ができていない。この先どうすればいいのか」  
国立スポーツ科学センター(JISS)の心理グループのスタッフの元には、4月以降、1年延期となった東京五輪・パラリンピックを目指す選手から、こんな悩みがぼつぼつ寄せられるようになった。

手から、こんな悩みがぼつぼつ寄せられるようになった。閉鎖された練習拠点や大会中止の問題のほか、道路・経済面を不安視する声があるという。

「検査中」と回答。拠点閉鎖や大会中止の問題のほか、道路・経済面を不安視する声があるという。中には不眠や食欲低下、円形脱毛症など体の不調をきたす選手も。国際アスリート選手協会では、3〜4月に行った調査では、軽症状を訴える選手が3カ月前より倍増したとの結果が出た。JISS心理グループ先任研究員の立谷泰久氏は「スポートは、心理面を重視して、人間を環境に置くことが、日常的にフォローできる環境づくりが今こそ求められる。」(編集部)

### 人生の大事なことを考える時期に

東京大会の延期はアスリートにどのような影響を与えているのか。1988年ソウル五輪シンクロナイズドスイミング銅メダリストで、現在はメンタルトレーニング指導士として多くのトップ選手を指導する田中ウルヴェ京さんは「来夏、五輪が本当に開催されるかも分からないと考える選手は多い。『不確実性』は共通したストレス」と現状を説明する。



ソウル五輪銅メダリスト・メンタルトレーニング指導士  
田中ウルヴェ京さんに聞く

「意欲低下についての相談も寄せられるが『モチベーションは必ずしも維持するものではない』と伝え、新たな気づきを提供する。あえて東京大会が再延期・中止となるシナリオも想定し、対処法の検討を指示した。『目標が変わり、『2024年パリ五輪を目指す』と定めた選手もいた。最悪の事態を想定する準備はゲームプランを考えるのと同じ』と話す。

選手にとって試練の日々が続くが、「人生にとって大事なことを考える時期」とも助言する。「これだけきつい時期だから、心を折れさせてしまつのも自分自身。あえてプラスに捉えたほうがクリエイティブな発想が見つかる」  
インタビュアーの詳細は電子版に▼スポーツーその他スポーツーインタビュー

# 県高野連 独自大会実施へ

藤久

4葉

## 8月初旬候補 「3年生の集大成に」

新型コロナウイルスの影響で今夏の全国高校野球選手権大会と代表校を決める地方大会が中止となったことを受け、県高校野球連盟

は22日、臨時理事会を開き、8月に県独自の大会を実施する方針を決めた。日程や大会の進め方などは今後検討する。

理事会後に記者会見した渡辺範夫会長によると、独自大会は学校再開後に授業日数が確保されることを前提に、夏休みになると見込まれる8月を候補とした。

同月20日からは秋の県大会予選が控えているため、渡辺会長は「8月のできるだけ早い時期に行いたい」と述べた。

ただ、開催に向けての課題として、①球場の確保②感染防止策③学校再開後の部活動の状況——を挙げた。新たに感染が広がったり、予防策が万全でも選手の準備不足が懸念されたりする場合は、開催を見送る可能性があるという。観客については今後、日本高野連が示すガイドラインに従

うとした。

選手権大会の中止が発表された20日以降、選手や保護者、ファンなどから、県高野連には代替大会の開催を願う電話や手紙が多数寄せられているという。渡辺会長は「選手の心情を考えると、何もしないという選択はなかった。甲子園という目標に代わるものはないと思うが、3年生の集大成にしてほしい」と話した。6月7日の定例理事会で、具体的な協議を行うという。

## 高校スポーツ

8月に甲子園球場で開催を予定していた全国高校野球選手権大会の

新型コロナウイルスの感染拡大が完全に収束していない状況で、高校球児の安全を考えた上での判断だろう。

日本高校野球連盟が、

# 成果を披露する場設けたい

5/24

中止を決めた。「夏の甲子園」の中止は戦後では初めてだ。

事前に全国約250球場で行われる地方大会での感染リスクを、完全になくするのは難しい。長期間の休校や部活動の停止に伴い、けがの心配もつきまとう。

全国から集まる代表校は、集団

での宿泊の後、地元に戻る。万が一、大会で感染すれば、地方に拡散する危険がある。7～8月は、学習の遅れを取り戻すため、多くの高校で授業が予定されており、学業への支障も懸念される。

大会を中止するのはやむを得ない選択だったと言える。

中止に追い込まれた高校スポーツは野球だけではない。柔道、剣道の大会のほか、トップアスリートへの登竜門とされる全国高校総体も開催されない。

高校生は厳しい練習を重ね、自粛生活にも耐えてきた。夢の舞台への道が閉ざされた無念は察して余りある。落胆は大きいだろうが、これまでの努力は将来、必ず生きるときが来ると信じてほしい。

「夢や目標がなくなった時、絶望や虚無感を覚えたのは、君が本当に真剣だったからだ」

五輪に3大会連続出場を果たした陸上の末続慎吾選手は、高校生アスリートに向けて、そんなメッセージを寄せた。

高校総体の中止を受け、全国高等学校体育連盟は、生徒を応援する取り組みを始める。サッカーやバレーボールの元日本代表選手らが自身の経験を伝えるオンライン授業を配信する試みだ。

生徒たちの中には、高校を最後に競技生活から離れる人もいる。可能な範囲で、これまでの努力の成果を披露できるような機会を設けることを検討してはどうか。

鳥取県では野球や総体などの代替大会が夏に開かれる予定だ。一部の試合はネットで中継する。佐賀県は県高校総体で行われる予定だった競技のうち、多くを6月に実施することを目指している。

無論、開催の実現には感染を防ぐ対策が欠かせない。現在、多くの競技で、感染予防の指針が示されていない。競技団体で手がかりとなるガイドラインを策定することが求められるよう。

競技ごとの特性や、地域の感染の収束状況を見極めつつ、代替措置の実現を模索してほしい。

いわゆる「3密」を避ける  
「新しい生活様式」は、世界  
中では例外なく適用されて  
いくことになるだろう。先日、  
米大リーグで、試合や練習の  
際を守るべき手引の原案が選  
手会に示された。スポーツ専  
門サイト「アスレチック」に詳  
報されていたので、幾つか挙  
げてみる。まずは球場施設・  
設備などの利用について。

「各選手のロッカーは6畳  
(約1・8畳)以上離すこと。  
できない場合は臨時ロッカー  
を設置する」  
「ビュッフェ形式による料  
理の取り分けは禁止」  
「共用の飲料水タンクの使用  
禁止」

「選手たちが食べたヒマワ  
リの種を飛ばすことだけでな  
く、ハグやハイタッチも慎む」  
至極当然の措置だが、球場  
の光景は一変することになり  
そうだ。

試合前の準備はどうか。  
「ミーティングは可能な限  
りリモートで」  
「ブルペンでは、投手は個  
々にボールのセットを用意す

7/6  
騒々

## 新たな日常 球場でも

フロント  
ライン  
太田朋男

る」

これも慣れるまで違和感が  
あるだろうが、やるしかない。  
試合中の行動に関しての制  
限はどうだろうか。

「ダッグアウトは必要最小  
限の選手のみとする」  
「半インニングごと、または  
球場の設備に触れた後には、  
手洗いや手指の消毒を行う」

「プレーが中断している時  
や打球間は、内野手は走者か  
ら数歩後退することを推奨す  
る」  
このあたりになると、プレ  
ーへの集中力にも影響するの  
ではないかと思う。あくまで  
も原案だから、変更される点  
もあるだろう。既に「球場で  
のシャワー使用回避」などは  
見直される方向のようだ。

全ては私たちが、最近慣れ  
てきた習慣の応用だ。でも、  
それを球場や試合で実践する  
ことは容易ではない。大リー  
グに先駆け、6月19日開幕に  
向け動きだしたプロ野球が感  
染防止策をどう構築し、実践  
していくのか注目される。

(編集委員)

### 日大駅伝監督 77歳の青葉氏

大東大で箱根4度V



日大の駅  
伝監督に、  
関東学生陸  
上競技連盟  
前会長の青葉昌幸氏(77)が  
写真が6月1日付で就任

することが24日、わかった。  
退任する武者由幸監督は、  
一般職員として日大に残る  
という。

青葉氏は日大出身。19  
68〜2000年に大東大  
で監督を務め、2度の箱根  
駅伝連覇を果たした。18年  
秋から日大の指導スタツ  
フに加わっていた。日大は  
今年1月の箱根駅伝で18  
位。14年大会の7位を最後  
にシードから遠ざかっている。  
青葉氏は読売新聞の取  
材に「まずはシード権を確  
保し、名門復活の芽吹きに  
貢献したい」と抱負を語っ  
た。

2016年リオデジャネイロ五輪

柔道女子57kg級

- 金 ラファエラ・シルバ(ブラジル)
- 銀 ドルジスレン(モンゴル)
- 銅 松本薫、モンテイロ(ポルトガル)

リオ市西部の五輪公園から  
サッカーが人気のお国柄だが、国内報道はシルバ一色に。ブラジル社会を象徴する彼女の半生に共感が集まったことも大きかった。

会4日目。松本薫の2連覇がかかる柔道女子57kg級を24歳のラファエラ・シルバが力で制した。

金の系譜

南米初の五輪をリオデジャネイロで開催したブラジルに、金メダル第1号が誕生したのは大会4日目。松本薫の2連覇がかかる柔道女子57kg級を24歳のラファエラ・シルバが力

番外編

貧民街の道場 凱旋



金メダルを獲得し、支援組織のセレモニーで子供らに囲まれたラファエラ・シルバ

近い、ポルトガル語で神の街を意味する「シダージ・デウス」の出身。リオだけで1000か所以上あるファベラと呼ばれる貧民地区の一つで、麻薬がらみの事件が相次ぐ荒れた街として知られていた。銃弾が飛び交い、毎日人が殺される地獄のような様子は、開会式で演出を担当し

たフェルナンド・メイレレス監督の映画でも克明に描かれた。シルバ自身、子供の頃に目の前で友達が銃弾で命を奪われる壮絶な体験をした。若くして犯罪に手を染めてしまう者が多い中、彼女は姉とともに、柔道に打ち込んで人生を切り開いた。非政府組織(NGO)が運

営するファベラ近くの道場で腕を磨いてブラジル代表入りを果たし、2012年ロンドン大会で五輪初出場。早々に敗退したが、ファベラ育ちの黒人に対する偏見は根深く、SNSで人種差別的な中傷を受けた。リオで雪辱を果たしたシルバは金メダルとともに道場に凱旋。「ファベラ出身者として自分が成し遂げたことを誇りに思う」と語った。

昨年、ドーピング検査で陽性反応が出た。ぜんそく治療に使用される薬物で、友人の子供と接触した中で摂取した可能性があり、故意ではないと主張している。新型コロナウイルス感染拡大で、ブラジル代表も活動を自粛しているが、リオではシルバのコーチを務めた現ブラジル男子代表監督の藤井裕子氏は「五輪連闘へ東京を自指す彼女の気持ちは変わっていない」と話す。山あり谷ありの柔道人生を、まだ終わらせるつもりはない。





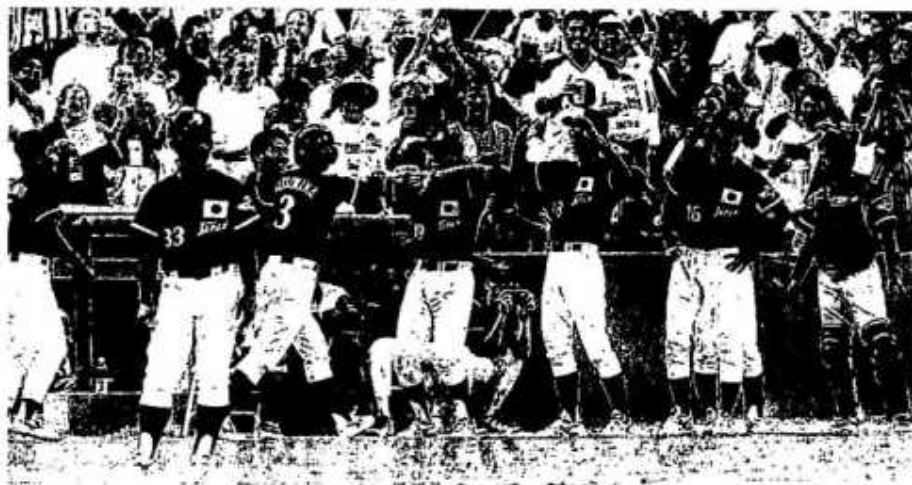
題字・稲葉監督

五輪野球回顧編

野球大国の地で、日本の戦いぶりが観客を魅了した。準決勝では開催国として優勝を目指す米国相手に金星を挙げ、決勝では王者キューバを追い詰めた。社会人・ヤマハの監督も経験し、ソウル大会でコーチも務めた監督の川島勝司(元)は「予選で苦しんで土壇場からは上がり、何も怖いものがなかった」と振り返る。手負いのエースの奮闘と9試合で89得点の打力が、銀メダルの原動力となった。

1勝3敗から3連勝で何とか予選を突破した日本と、6勝1敗の2位で通過した米国との準決勝。予選では大敗していたが、誰も負けるとは考えなかった。ナインを勇気づけたのはエース杉浦だ。大会直前から右足を痛めて予選途中から復帰した大黒柱が、強力打線

# 奮闘 エースの手負い



## 1996年アトランタ銀

に対し六回途中まで投げて2失点。応えた打線も11得点で大勝した。川島は、自国開催だった相手選手をこう分析する。「本塁打性の打球が最後に失速してアウ

トになったりして、相当、肩に力が入っている感じだった。ものすごい重圧だったのだと思う」

翌日の決勝。一晚悩んだ川島は「キューバを倒して

▲アトランタ五輪の決勝戦で、いったんは同点となる満塁本塁打を放った松中(左)を迎える日本ベンチ



決勝でキューバに敗れたものの、日の丸を手に声援に응える日本の選手たち

の金メダル」という日本の長年の悲願を、連投の杉浦に託した。7日間で4戦目の登板となった杉浦は、初めに3失点し、二回にも失点して途中で降板。ここから打線が猛反撃を見せる。五回には松中が同点の満塁本塁打。再び勝ち越されたが、最終回に谷のランで追い上げた。諦めない日本野球の真骨頂は見せた。

試合後、ベンチで落胆する日本チームの元に、現地スタッフがやってきた。「お客さんは皆、あなた方が出てくるのを待っています」

◆アトランタ大会の日本成績

予選リーグ	相手	スコア	主な選手とその後の進路
① 7.20	オランダ	○12-2	杉浦正則(日本生命)
② 7.21	キューバ	●7-8X	川村丈夫(日本石油一横浜)
③ 7.23	豪州	●6-9	松中信彦(新日鉄君津)
④ 7.25	米国	●5-15	谷津一(ダイエー)
⑤ 7.27	ニカラグア	○13-6	三宅良太(三菱自動車)
⑥ 7.29	韓国	○14-4	岡崎一(オリックス)
⑦ 7.30	イタリア	○12-1	井口忠仁(青学大)
準決勝 8.1	米国	○11-2	福留孝介(日本生命)
決勝 8.2	キューバ	●9-13	中田(中日)

※網は米国。表記は当時のもの

すよ」。キューバ勢が去っても鳴りやまない拍手は、自分たちに向けられたものだった。日の丸を持った選手がグラウンドに飛び出し、大声援に応えた。泣き顔の選手もいた。

準決勝で自国の金メダルの夢を奪った相手であっても、好プレーに、素晴らしい戦いに賛辞を贈る。「ウイニングラン」ならぬ「シルバーメダルラン」は、米国の野球ファンからの最高のプレゼントだった。川島は言う。「野球の国の五輪で、決勝まで戦えた。幸せな時間だった」(敬称略)

# ファンの「投げ銭」収益源に

ワタシ

サッカーJ1の鹿島が先日、実験的なイベントを開催した。過去の名勝負をNHKのBS1などで放送したのに合わせて小笠原満男氏らチームOBがリモートでトークショーを開催。それをオンライン上でライブ配信してサポーターから募金を受けつけたのだ。

画面の「サポートする」をクリックして1口500円から金額を指定、クレジットカードで決済する。何口でも可能。放送された試合での好プレーやそれに対する絶妙のコメントなどがあるとクリックが増えたという。実際の試合のライブ

## スポーツの力

配信でやればもっと効果があることだろう。

大道芸人やストリートミュージシャンの芸や音楽に「おひねり」を投げる感覚で、ネット上でも「投げ銭」と呼ばれるシステム。新型コロナウイルスの影響で無観客での開幕が決まったプロ野球も導入を検討する球団があるかもしれない。

鹿島が今回のイベントで使ったのはスポーツエンターテインメントアプリ「Player」(プレーヤー)だ。本来は、メディアが報じない学生スポーツや地域リーグ、マイナー競技の試合経過を関係者の協力

でファンに届けて、応援し盛り上がるサービスである。学生チームのOBやOGから寄付を募る「投げ銭」機能があり、その活用を鹿島に提案して今回のイベントが企画された。プロスポーツでなくても、資金集めの有効な手段になりそうだ。プレーヤーを展開する株式会社okami(オオカミ)の尾形太陽社長は「(コロナ危機の影響で)収入を失うチームや競技団体に、オンラインの活用で新しい収入源を供給したい」と話す。日本経済新聞が国内の五輪競技団体(NF)を対象

に行ったアンケートでは、回答した27団体のすべてが、新型コロナウイルスで財政への影響・不安が「非常にある」

「ある」と答えた。スポンサーは撤退し、大会や試合は中止になり、登録競技者も減っていく。この状況では国からの支援も期待できない。今は必死で知恵を絞る時である。

競技団体は過去の名場面や名選手、現役アスリートなど多くの資産を持つ。試合がなくても、それを使ってファンに楽しさや満足を提供し、応援する気持ちを

お金に換えていく。そんな仕組みを新たに確立できれば、コロナ危機で生まれた新しい財源となる。(編集委員 北川和徳)

# 大学再開に時間

「オンライン授業継続」

県の休業要請が解除されても、大学などには、すぐに再開できない事情がある。

船橋市習志野台にキャンパスを持つ日大理工学部。大学本部では5月31日まで緊急事態宣言が続くことを前提に、6月15日頃の再開を考えていたという。宣言は想定より早く解除されたが、オンライン授業が始まっており、実家に帰省している学生も少なくない。急な再開は混乱を招く恐れもあり、同大の担当者は「再開までには時間がかかる」とする。

千葉大では宣言が出された翌日の4月8日から、県

内4キャンパスで学生の大学構内への立ち入りを制限。感染収束の見通しが立たなかったため、授業は7月31日までオンラインで行うことを決めた。

今後は学内への入構制限解除の時期などを検討するが、7月末までは予定通りオンライン授業を継続する。サークル活動の再開時期などは未定という。

# 感染防ぎつつ段階的な再開を

ワウ

## プロスポーツ

スポーツには見る者を勇気づける力がある。感染抑え込みの状況を見極めながら、段階的に再開することが望まれる。

新型コロナウイルスの影響により、公式戦が中断・延期されているプロスポーツで、再開

の動きが目立ってきた。台湾や韓国ではプロ野球が開幕した。無観客からスタートした台湾は、観客を2000人入れて試合が行えるようになっていた。サッカーは、韓国のKリーグが開幕したほか、ドイツのブンデスリーガが欧州の主要リーグでは初

め、無観客で再開された。これまで外出を制限されてきた人たちにとって、明るい希望を与えたのではないか。日本のプロ野球は、来月19日の開幕が発表された。感染対策のため、当面、無観客で試合が行われる。サッカーJリーグは6月下旬〜7月上旬の再開を目指している。いずれも、感染症の専門家チームの提言を踏まえたものだ。プロ野球もJリーグも、試合に向けた指針作りを進めている。選手やスタッフに感染が広がれば、試合を再び中断せざるを得なくなる可能性もある。綿密な感染防止策が欠かせない。

抗体検査やPCR検査を実施して、感染の恐れがないことを確認することが重要だ。選手たちが不安なく戦える状況を作り出すことにつながる。感染リスクを減らすため、選手の移動をできるだけ少なくする試合日程を組む必要もある。ベンチの選手がマスクを着用したり、選

手同士のハイタッチを禁止したりする取り組みが考えられる。今後の無観客試合については、ネット配信やテレビ中継などが行われる見通しだ。映像を通じて選手たちの躍動感あふれるプレーが楽しめることだろう。

観客を入場させての試合開催は、地域の感染の収束状況を確認した上で、判断することになる。入場者の検温や観客同士の間隔確保などの対策が大切である。会場の感染防止策の有効性を検証しつつ、段階的に入場者数を増やしていくことが求められる。プロスポーツの中には、激しい接触プレーを伴うものもある。大相撲では、体と体をぶつけ合うことに加え、稽古場が密閉空間になりがちだ。今月には、28歳の現役力士がコロナで死去するという悲しいニュースがあった。

日本相撲協会は力士や親方ら全協会員を対象に抗体検査を続けている。競技の特性を踏まえた対策を講じていきたい。

の  
様  
を

# 甲子園代替大会に100万円

## 総体も スポ庁、主催団体支援

新型コロナウイルスの感  
染拡大で学校部活動の全国  
大会が相次いで中止された  
ことを受け、スポーツ庁は、  
各地域での代替大会の開催  
に1大会当たり最大100  
0万円を補助する方針を固  
めた。今夏に予定されてい  
た全国高校総体（インター  
ハイ）、全国高校野球選手

権大会（甲子園球場）など  
を念頭に、集大成の場を失  
った最終学年の生徒や学生  
らに活躍の舞台を用意する  
よう促し、財政面から支援  
する考えだ。  
27日に閣議決定する20  
20年度第2次補正予算案  
に約8億円を計上する。支  
給の対象は、地方で代替大

会の主催者となる各都道府  
県高校体育連盟や競技団体  
などで、総合大会にとどま  
らず個別競技のイベントも  
含む。大会運営や感染防止  
策に必要な経費に充てても  
らうことを想定している。  
萩生田文部科学相は26日  
の閣議後記者会見で、「（高  
校生らの）3年間の証しを

しっかり残してあげること  
が必要。せひ何らかの記録  
会を県単位でやってもらい  
たい」と述べた。

プロ・アマを問わず中断  
や延期となっている全国規

模のスポーツイベント再開  
については、支援として1  
次補正で約8億6000万  
円を計上しており、2次補  
正案でも約12億円を盛り  
込んだ。